

玉燈

～タイトル「玉燈」によせて～

「玉」は立派なものに磨きあげる、「燈」は教え、照らすを表し、「子どもへの愛育」と「情熱に満ち溢れる教師道」をイメージしています。また、「玉燈」は、郷土の先人 國友一貫斎の代表的発明品としても知られています。

恩送り

長浜市教育委員会事務局
次長 高山 義雄

まずは、私個人の「楽しみ」について。

「楽しみ」にしていることの一つに「青春18切符」を使っている旅行があります。始発の電車に乗って、終電近くの電車に戻ってきます。

これまで、兼六園、姫路城、南京町、嵐山、竹田城跡、飛騨高山などに出かけました。

なにせ、5回分で 12,050 円の切符。1回分(1日分) 2,410 円で、普通・快速列車限定ですが1日乗り放題だなんて…。こんなに魅力的なサービスはありません！

乗り換えながら5時間以上電車に乗っている時もありますが、ぼーっとしながら車窓から景色を眺めるだけで心が癒される。私にとっては、電車にゆられるこの時間も至福の時間となっています。

さて、先日、浜名湖に行った時のこと。「浜名湖花博2024」が開催されていることを知り、急遽、近くの駅で降りて、そこからボートで会場に向かいました。柄にもなく花を愛でる時間をいただき、この日の旅行も素敵なものとなりました。

この日は、あるご夫婦との出会いがあり、その出会いで、旅行がより素敵なものとなりました。

花博の会場から近くの JR 駅に戻るとき、行きに乗ったボートで移動しようとしたのですが、そのボートのチケットが現金でしか購入できないと分かりました。(行きは OK だったのに…。)最近では電子マネーで支払いをすることが多く、その時も財布の中に現金はあまりありませんでした。どうしようかと思案していると、困っている私を見て、あるご夫婦が「私たちも今から家に帰ります。駅が近いので送って行ってあげますよ。」と声を掛けてくださいました。「是非」とおっしゃる親切に甘え、私は、最寄りの駅まで送っていただくことになりました。

車を降りる時、「少しだけ」とお礼を渡そうとしましたが、固辞をされ、「よいご旅行を」と笑顔で去って行かれました。

この時のお二人の素敵な笑顔を見ながら、「恩送り」という言葉を思い出しました。

恩送りとは、誰かから受けた恩を、直接その人に返すのではなく、別の人に送ること。

振り返ると、私は多くの「恩」に支えられてきました。教師人生ももちろんで、子ども時代に先生を含む多くの大人からいただいた「恩」、教師になってから、同僚の先生方からいただいた「恩」と、いろんな方からの「恩」を思い出します。

ある先生からは、「人が成長するには、多くの人との関わりが必要です。その方々からいただいたものに感謝して、今度は、自分が関わる人にお返しをする。教育とは、まさしくそういうことですね。」と教えていただいたことがあります。まさに「恩送り」です。

今、長浜市では、「すべての子どもたちに真の学力を身に付けさせること」を最上位の目標に、「誰一人取り残さない教育の実現」に取り組んでいます。各校の先生方には、この最上位の目標に向けて、日々、ご尽力をいただいていることに感謝を申し上げます。

そこで、日々の業務に精励いただいている先生方に質問です。先生方は、これまで、誰から、どのような恩を受けてこられたでしょうか。物事の捉え方は人それぞれですから、「恩を感じてこなかったの？」なんて、恩を押し付けることはナンセンスです。が、受けてこられた「恩」を、目の前の子ども達に「送って」いただければ私自身も幸いです。

教育は、夢のある仕事です。人生の先輩として、将来を託す子ども達にしっかりと「恩」を送ることができるのは、本当に幸せなことです。

私自身、長浜の教育に関わっていただく皆さんと力を合わせ、子どもたちのよりよい将来のために頑張りたいと思います。引き続き、よろしくお願いします。

※浜名湖でいただいた「恩」。「恩送り」しようと思いましたが、なかなかできない自分もいます。残念。



長浜市主催で実施した教職員研修会は全部で40講座です。小・中学校全教職員を対象とした研修内容の一部と受講者の感想をご紹介します。



令和6年度 授業改善研修

探究的な学びによる「個別最適な学び」と「協働的な学びの一体的な充実」

講師：藤村 裕一 先生 鳴門教育大学大学院学校教育研究科 教授

教員養成DX推進機構長 首相官邸教育再生実行会議初等中等教育WG委員

7月29日（月）湖北文化ホール

小学校の全教職員を対象とした授業改善研修として、集合研修と動画配信によるオンデマンド研修を行いました。今、学校ではICTを活用して一人ひとりに「個別最適な学び」を提供しつつ、他者との協働を通じて問題解決能力や想像力を養うことが重要視されています。小学校におけるICTの具体的な活用例を紹介いただき、柔軟な授業設計の重要性をご指導いただきました。



受講者の感想 ～研修の中で最も印象に残ったこと～

- ・問題発見・解決学習に近づけるよう、まずはまねるところからスタートして子ども自身が自己の学びを調整し自己決定できるように教師がどのように指導すべきか教師の役割をみんなで学んでいきたいと思いました。繰り返し聞きたい講演でした。
- ・学力観、授業観の転換と言われているように、これまでの学習のあり方ややり方に固執せず、新たな発想で捉え直し、子どもが主体的に学ぶとはどんな姿を目指すのか明確にして取り組んでいきたいと思います。
- ・フィンランドや秋田などの実践を紹介していただいたことで、より具体的に実践内容や身につけさせたい子どもの力についてイメージすることができました。



令和6年度 授業改善研修(中学校悉皆)

資質・能力を育む授業づくりのポイントと教師の学び方

講師：澤井 陽介 先生 大妻女子大学 家政学部 児童学科児童教育専攻

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 人間生活科学専攻 教授

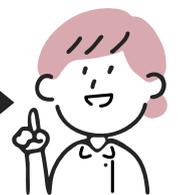
8月23日（金）湖北文化ホール

中学校の全教職員を対象とした授業改善研修として、集合研修と動画配信によるオンデマンド研修を行いました。前半は「協働性のある校内研究（研修）」について、4つの工夫点（授業を見る際の「授業改善の視点」の明確化、研究への意欲を高める工夫、毎回の研究授業を意味付ける、協議会への参加姿勢を共通理解する）をモデル図や写真をもとに紹介いただき、後半は会場に集まれた先生方の質問をホワイトボードにまとめ、1つずつ具体例を挙げながらご指導いただきました。



受講者の感想 ～研修の中で最も印象に残ったこと～

- ・今後、AIが進歩して学校教育に取り入れられていくと、それを上手く使っていくために「的確に質問（問い）を考える力」が必要になるという話が印象に残りました。問いをつくる（探求する）過程、考えるプロセスを中心に授業設計をしていきたいです。
- ・課題解決型の授業を行うことで、子どもたちが考える力を養うことが大切だと感じました。理科の授業でなかなか考察が書けない子がいます。澤井先生の『考える力は考えることでしか身につかない』という言葉はすごく説得力があり、授業の課題や評価、組み立てをもっと考える必要があると感じました。
- ・実際に先生方が抱えておられる悩みを元にお話しして下さって、興味を持って聞くことができました。できない、わからないという事象に対してどうすればできるようになるかというところに面白さを感じるのだろうとパワーポイントで示して下さった実験の子どもたちの表情を見て思いました。自分もそういう意識を持って授業に取り組んでいきたいと思いました。





地元にある長浜バイオ大学で行われた研修と特別支援に関わる研修の内容の一部と受講者の感想をご紹介します。



学びの実験室①②

植物の体のはたらき ～植物の吸水実験～

講師：宇佐美 昭二 先生 長浜バイオ大学バイオサイエンス学部 教授

7月22日（月）長浜バイオ大学 学びの実験室（命翔館）

理科の学び、実験のおもしろさに触れてもらうべく、教職4・5年次の小学校の先生方と希望された小・中の先生を対象とした研修を行いました。教科書に沿って子どもたちの興味関心を喚起し、学ぶ意欲が高まる実験を体験してもらいました。先生方ご自身で準備していただいた植物の吸水実験を行うことで、先生方一人ひとりが自然の不思議さに目を輝かせておられる姿が印象的でした。



受講者の感想 ～研修の中で最も印象に残ったこと～

- ・実際に自分の手で触って、自分の目で見て、確かめてみることほど楽しく、自分の中に確かに残るものはないなと思いました。
- ・吸水している様子を観察していると、植物が生きるために知恵をもっていることや、植物も確かに生きているんだということを実感し、感動しました。
- ・子どもたちの身近な植物・道具で実験を行うことで、学習がより生活に近いものになると思いました。このことは理科だけではなく、算数科や国語科などの他教科にも共通するものであると思いました。



授業改善研修

崩れない学級づくり～特別支援教育の観点からの信頼関係の構築～

講師：松久 眞実 先生 桃山学院教育大学人間教育学部 教授
特別支援教育士SV・学校心理士・公認心理師

8月26日（月）さぎなみタウン

昨年度のオンライン研修に引き続き、今年は集合研修を行いました。特別支援教育の視点から、信頼関係を構築し、安定した学級運営を目指すための教師と児童・生徒の信頼関係を築くための具体的なアプローチについて指導いただきました。すべての子どもたちが安心して過ごせる学級づくりのためにも、教師が好意に満ちた語りかけを一貫して行うことが大切だにご示唆いただきました。



受講者の感想 ～研修の中で最も印象に残ったこと～

- ・学級運営をする中で、全体へのぶれない指導と個人へのうっとりするほどのあたたかい褒めを両立させないといけないことを再認識しました。
- ・2学期からは「ほめ言葉のシャワー」などの実践を通して、あたたかい学級経営を目指していきたいです。
- ・「伸びしろを褒める」という担任のブレないアプローチの仕方は、大変わかりやすく、子どもたちにとっても、「みんな頑張るところは違う。それぞれがそれぞれの目標に向かって頑張ればよい」と納得できるものだと思います。
- ・特別支援が必要な児童に対する配慮も大切だが、同時に周りの子どもたちを育てていくことが重要だと再認識しました。「伸びしろをほめる」や「静寂の時間の徹底」、「指導はたく短く」、「毅然を演じる」などキーワードをいただいたので、2学期から児童との関わりの中で意識していきたいです。





一人ひとりが「できた」「わかった」と学ぶ喜びを感じられる授業を！



学級での個別の配慮 多様な学び方の受容 さりげない支援

【前置きして話す】
これから〇つ話をします。
1つ目は～です。
2つ目は～です。

【一文一動作】
「～の次は～する」でなく、「1～。2～。3～」

【肯定的な言葉かけ】
「～できなかったら～しない。」でなく「～したら～しましょう。」

【具体的な称賛】
ほめるときは具体的に。「～がいいね」



【言葉のイメージ化】
例) 静かに廊下を歩く時⇒「忍者になって廊下を歩きましょう」



【具体的な指示】
「あっち」「こっち」「たぐさん」「すこし」「だいたい」「ちゃんと」でなく目的や終点、量や回数を明確に。

【語調に変化を】
声のトーン、抑揚、スピードの変化により強調する。

【非言語的動作】
アイコンタクト、OKサイン、動作やアクション

指示伝達の工夫

話す時は、注意を向けてゆっくり、はっきり、短く話すことが大切です。
伝わらない時は、繰り返し話すことも必要です。そして、伝わったかどうかの確認も忘れずにできるとよいですね。

先生や友達の話最後まで聞くことが難しい子には

文字の形が整わない、枠や罫線から文字がはみ出る子には

大事なお知らせに目を向けるのが苦手な子は

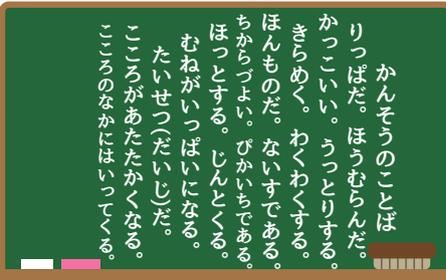
教科書と同じ書体、できるだけ大きい枠を使用する

例えば、国語の漢字プリントの工夫です。
漢字の部分は、教科書と同じ書体を使って示すとよいです。学年が上がったからといって、マス目を狭くする必要はありません。高学年であっても、低学年と変わらないようにできるだけ広いマス目をつかって、大きく書いて練習できると取り組みやすくなります。また、Bや2Bの鉛筆を使用して、力の入れ具合の調整をしやすくすることも大切です。

自分の思いを表現することが苦手な子は

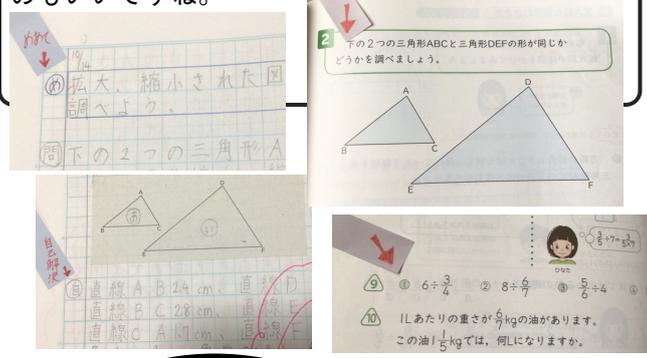
感情を表現するための語彙を増やす

感情を言う場面では、「すごいと思いました。」「がんばりました。」など、どの児童生徒も同じような表現になってしまうことが少なくはありません。感情場面で出てきた言葉をひとつひとつ取り上げ記録しておくこととよいです。様々な場面で児童生徒から出てきた言葉をクラスの言葉の宝箱にため込み、みんなで共有できるとよいです。感情表現する際に、自分の気持ちに近いぴったりの言葉を見つけ出すことができ豊かな表現につながります。



付箋の使用で注目を促す

普通の教科書でも、机間巡視しながら今勉強しているところに付箋を貼ってあげることも簡単な視覚支援です。練習問題をやる時も、教科書の練習問題の番号のところや、ノートに問題を写し始めるスタートのマス目のところに付箋を貼って教えてあげるのもいいですね。



個に応じた支援は、必ず個別の指導計画に記録し、支援の足跡を残しましょう。具体的な手立てが、進級・進学時にも引き継ぎされるようにお願いします。

